

ボランティア活動について

社会福祉子ども学科社会福祉学専攻 新井利民

はじめに

毎年のように起こる自然災害。災害や被災地・被災者は遠い存在ではなく、いつわが身に降りかかってきてもおかしくないと感じている方も多いのではないのでしょうか。日本では、1995年の阪神淡路大震災以降、数多くの災害を経験する中で、公的機関による様々な施策・取り組みとともに、様々な形のボランティア活動による支援の大切さが認識されるようになりました。本稿では、災害時のボランティア活動を概観したうえで、皆さんにもすぐにできることについてご提案したいと思います。

発災から復興までの段階とボランティア活動の役割

災害時の支援活動といっても、時間の経過とともに様々なニーズが発生し、ボランティア活動の内容もそれに対応して変化します。ここでは、災害復興のフェーズ（段階）ごとのボランティア活動の役割を見ていきましょう¹⁾。

1. 救急救命期

発災から約3日間の救急救命期は、人命救助が優先される時期で、自衛隊・警察・消防などの公的機関の役割が大きいと言えます。しかし、例えば阪神淡路大震災では、地震によって倒壊した建物から救出された人の約8割が家族や近所の住民等によって救出されたという調査結果があります²⁾。東日本大震災においても、声を掛け合って津波から避難したり、倒壊した家屋から共助によって助け出されたりした事例も多数報告されています³⁾。**自らが被災した際には、組織的「ボランティア活動」ではなくとも、救急救命期においてもできる範囲の自発的な助け合いを行うことが不可欠と言えるでしょう。**

2. 緊急援助期

発災後数日の間に、大規模災害の場合には避難所が設置されます。**自らが被災者である場合には、避難生活の基盤を整えるとともに、避難所の運営は自主運営が原則とされていることから、様々な人々と協力しながら運営に参加・協力することも必要です。**

外部からのボランティア活動の場合、綿密な情報収集と自己完結で活動できるような準備を経て、市町村社会福祉協議会等を中心に設置される「災害ボランティアセンター」との連絡調整の元、支援活動をスタートします。活動内容は、破壊されたライフライン（電気・ガス・水道）や救援物資の流通に対する公的機関の対応のサポートや、避難所の運営支援を行うことなどがあげられます。

例えば避難所の運営支援といっても、その内容は様々です。東日本大震災の際には、原発事故により福島県から「さいたまスーパーアリーナ」に2,000名を超える人々が避難してきました。その際の支援内容は、荷物の運搬、炊き出しやその配膳、避難スペース内の清掃やゴミ捨て、洗濯、子どもの遊び相手や学習支援、高齢者や障害のある方々の相談相手や交流など様々なものがあり、埼玉県立大学の学生を含む多くのボランティアが活動しました⁴⁾。

また、瓦礫の撤去や水害時の泥だし・清掃活動などもスタートします。被害が大きければ大きいほど、この種の活動にはたくさんのボランティアによる支援が必要とされます。

3. 生活復旧期／生活支援・住宅再建期

大規模災害であれば、避難所生活は長期化するとともに、生活できるようになった自宅や応急仮設住宅、みなし仮設住宅等への移行をする際に、様々な支援ニーズが発生します。具体的には、引っ越し作業、その間の子どもや高齢者への支援、生活環境の整備などがあげられます。また、応急仮設住宅、みなし仮設住宅等への移行は、優先度や抽選などによって、もともとの地域・集落ごとに行われるとは限りません。そのため、新しいコミュニティを形成するために、人と人を結びつけるような居場所づくりなどの取り組みも必要であり、これらの活動にも、**被災者自身のボランティア活動**、そして**外部のボランティア**の力が求められます。

4. 復興期

応急仮設住宅などのコミュニティが形成されたり、地域の機能が徐々に回復したりする段階です。**外部のボランティア**の関わり方も、**被災した地域や住民**の自立を妨げない活動を模索する必要があります。

また、被災地域の地場産業が打撃を受けた場合、復興に際して様々な取り組みが求められますが、営利活動に対する支援までカバーできない現実もあります。例えば熊本地震で大きな被害を受けた阿蘇郡西原村では、農業復興を支えるための「西原村百笑（ひやくしょう）応援団」という団体が発足し、ボランティアを募って被災した農家に派遣する取り組みが行われました⁵⁾。このような地場産業を支援するボランティアは、過疎化が進む中では今後ますます大切になってくるでしょう。

東日本大震災の被災者の心に寄り添った息の長い支援は、現在も続けられています。埼玉県立大学にも支部がある「僕らの夏休み Project」は、関東近県の18大学の学生が被災地の子供たちを支援する取り組みとして現在も様々な企画を現地で行っています⁶⁾。また、東北から関東を含む様々な地域への広域避難者も多いことから、例えば埼玉県内に避難してきた方々に対する情報支援活動（情報誌『福玉だより』や子育て中の母親向け情報誌『ぼろん♪』の発行）⁷⁾や、交流の場の形成・維持の支援なども、本学の卒業生を含むボランティアの手によって担われています。

あなたにも今からできる災害支援活動

このように、発災から復興に至るまで、被害の状況や地域の実情に応じて様々な支援ニーズがあり、国・都道府県・自治体による公的責任による取り組みと共に、それらでは対応しきれないニーズに対して、ボランティア活動の役割は非常に大きいといえるでしょう。読者の皆さんも、災害ボランティア活動に一步踏み出してみませんか？

ここでは4つのタイプに分けて、具体的な行動を提案したいと思います。

1. とても関心があり、今すぐ何らかの活動をしたい方

様々な研修活動への参加や団体等への登録を通じた、知識・技術の蓄積とネットワークの構築をお勧めします。市町村社会福祉協議会では、「災害ボランティア登録制度」によって活動したい方々を把握し、定期的な会合や研修活動を行っているところが増えてきています。活動者の学びの場やつながりの場を設けることにより、いざというときに地元や被災地でのボランティア活動において中核的な役割を担っていただくための取り組みです。

また、様々な被災地でボランティア活動支援を行っている一般社団法人ピースボート災害ボランティアセンターは、災害ボランティア入門講座やリーダー養成講座を開催しています⁸⁾。

2. 災害が発生したら、被災地でできることをやってみたいと考えている方

災害が発生し、地域の安全状況が確認できた頃に、ぜひ被災地の災害ボランティアセンターの Web サイトをご覧ください。どのようなボランティア活動がどの程度必要なのか、募集の範囲（地元や近県中心なのか、全国に広く募集しているのか）や参加手続きなどについて掲載されているはずです。そこで掲載されている情報を踏まえ、状況に応じてぜひ現地での活動に一步踏み出してください。被災地での活動は様々なものがあり、男女問わず、そして若者もベテランも、必ず力になっていただけることがあるはずです。

なお、被災地に赴く際には、地元社会福祉協議会において「ボランティア保険」へ加入して事故に備えるとともに、最低限必要な装備なども準備していただきたいと思います。

3. 地元の防災・災害時支援に関心のある方

ぜひ地域福祉活動や防災活動に参加してください。地域福祉活動とは、例えば自治会館・町内会館等で行われている「サロン」の活動や昼食会、地域の様々な方に対する見守り活動などです。また、自治会・町内会に自主防災組織があればその催しや防災訓練などにも参加するとよいでしょう。日ごろからの顔の見えるつながりが、前述のように、救急救命期・緊急援助期でも力を発揮し、そしてその後の復旧・復興の礎になるはずです。

4. 義援金・支援金の「寄付」も大切な活動

被災地でも、そして地元でも災害ボランティアを行うイメージがわからない方は多いと思いますが、そんなあなたにもできることが「寄付」です。日本赤十字社・中央共同募金会（赤い羽根共同募金）・各自治体・テレビ局などでは、被災者に直接配分される「義援金」の募集があります。一方、本稿の趣旨から言えば、「支援金」という寄付の形も大事な取り組みの一つです。中央共同募金会では、被災地で活動する NPO やボランティア団体に支援金を配分するための「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金（ボラサポ）」を設置し、寄付の募集と助成を行っています⁹⁾。また全国的に被災地への活動をしている NPO 団体などに直接寄付金を送金することもできます。

おわりに

災害に対して我々ができることは、常日頃からの備えによって「減災」を目指すこととともに、発災後の適切な行動や人々の具体的な行動によって被害を乗り越えていくほかありません。地域の様々な皆さんと協力しながら、できることから取り組んでいきましょう。

文献

- 1) 山本克彦編著：災害ボランティア入門, pp. 6-11, ミネルヴァ書房, 2018
- 2) 河田恵昭：大規模地震災害による人的被害の予測, 自然災害科学, 16(1):3-13, 1997
- 3) 内閣府：平成 26 年版防災白書, 第 2 章「公助の限界」と自助・共助による「ソフトパワー」の重要性
http://www.bousai.go.jp/kaigirep/hakusho/h26/honbun/0b_2s_01_00.htm (2019. 8. 21)

閲覧)

- 4) 新井利民：学生による災害福祉支援活動の展開と今後の課題，保健医療福祉科学, 8:61-67, 2018
- 5) 毎日新聞：西原村の農業復興持続へ 百笑応援団が発足 都市と交流し人手不足解消 (2016年9月27日地方版)
- 6) 僕らの夏休み Project Web サイト <http://bokunatsu.com/> (2019.8.21 閲覧)
- 7) 特定非営利活動法人埼玉広域避難者支援センター Web サイト <http://fukutama.org/> (2019.8.21 閲覧)
- 8) 一般社団法人ピースポート災害ボランティアセンター Web サイト <https://pbv.or.jp/> (2019.8.21 閲覧)
- 9) 中央共同募金会 ボラサポ Web サイト <https://www.akaihane.or.jp/saigai-news/vorasapo/> (2019.8.21 閲覧)